滿洲日報

○報價目
每月收取八角代賣所及送報人并無分毫加增
○告白刊例
一行五號二十一字起碼登一日者每行二角每登十日行一角五分登月者每行每日一角登長年者價當面議
從減 每張四百文

油豆行情（中曆正月二十日）
集市元豆六吊百至六三吊二百
豆油價錢五吊四百文至五吊
共上車三十餘輛
共來七十餘輛
邊豆六吊九百至六吊八百

全 全 同十一圓
全 全 九鋲入 同五圓
全 全 大樽 同四圓
赤味噌 四打入 同九圓三十錢
札幌麥酒 全 同九圓八十錢
蜂印香竄葡萄酒 全 同二十二圓五十錢

煉乳 入打 同十三圓五十錢
全 全 同二十三圓
箭筒 全 打半 同八圓五十錢
梨燒 四打 同十一圓
桃 全 同九圓五十錢
人形ミルク 全 同十二圓五十錢

一中等塊炭 全 全 十五圓五十錢
一全 切込 全 全 十四圓五十錢
澤鶴 サッポロビール 正味四斗四升入 （宅合名會社調査）十七圓 九圓七十錢

$4.00 per 6 months.
Rates for Advertisement 20 cts. per line.
Payable in Advance. Postage Included.
The Manchuria Daily Report Office.
Newchwang.
Telephone No. 29.

告料 一半ヶ月以上 一ヶ月以内 一長期連掲減價面議 銀十五仙乃至十仙
發行所 清國營口中盛街 滿洲日報社（電話二九番）

特別廣告
▲資本金貳千四百萬圓
▲積立金一千零拾四萬圓
本支店出張所
橫濱 神戶 東京 長崎 大阪
倫勅 里昂 紐育 桑港 布哇
孟買 香港 上海 天津 北京
大連 旅順 奉天 芝罘 鐵嶺
電話 十番 支配人室 百八番 事務室
橫濱正金銀行牛莊支店

清酒東自慢、白鹿
朝日ビール
孔雀印平野水、箱根水
上等石炭及撫順炭
以上極廉價を以て發賣致候間御用仰付被下度候也
松茂洋行商業部
河岸通（電話五十二番）

滿洲日報各地賣捌所
滿洲日報廣告取次所
大連市讚岐町三百三十八號
日華運輸公司
大連市磐城町四十九番地
岡野新聞舖
奉天大南門內景祐宮胡同
全泰號
遼陽 遼陽倶樂部
谷口今朝太郎

三井洋行
啓者本行開創在中外通商各埠已有年歷所售綿紗棉布火柴煤炭糖海參等各貨均皆物美價廉名馳遐邇如蒙各商光顧請移駕臨是荷者
●精製白砂糖新入荷物あり
倉庫部
今回倉庫所在地（青堆子精搗場上隣り河岸）の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は仝所へ御照會被下度願上候（電話百二十八番）

合名會社 宅谷
本號前在營口東營元神廟街自造日本酒澤龜印并一切雜貨其名聲己傳播於滿洲全地矣今又擬在西營子老爺閣街同源德院內分設支店一所發賣綿絲粗布火柴絲布絨衣帕襪布手巾花巾東洋襪子洋傘雜貨物俱全而價值尤格外從廉且貴客賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請駕臨爲幸
總司理人 田中頼之助謹白

東盛和
本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨併行並經理各客代客經理買賣租船裝運事宜營口廣東兩處自建碼頭能泊輪船二艘棧房地方寬大凡油輪船一到裝卸貨物極爲利便圍貯油餅豆米麥更爲合宜並置有輪船一艘名城多利能載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水腳棧租格外從廉 貴客賜顧請到小號面議是荷
總司理人 業亮卿謹白

東永茂
機器油房在營口創辦油捭生意多年以本營業弗祇做油房事及經理買賣雜貨布疋等物并代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚遐邇知之
正理事 稽玉田 副理事 金德魁 設在營口西北街路南

西義順
本號開設營口西街老爺閣前路南警乙第五號專營裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寬大凡中外士商賜顧者請認明招牌決不致悞
本主人敬啓

仁裕號
係裝運各幫火輪船生意兼賣各樣洋什貨糧石等此佈
營口西大廟街路北警乙第十三號

恒有長
本號開設在西大廟街路南第十一號廣顧雜貨一應俱全價值格外從廉克己并另設銀爐包餉以應急需久爲中外士商所推許凡賜顧者請認明招牌爲荷

元茂盛
油坊買賣元荳荳油荳餅雜色糧石以及代客隨辦雜貨布疋一概發行裝運沙船交易南北客商歷有年矣爲此謹白
開設營口西街老爺閣前路北警乙第四十九號

代代米烟公司
本行專售 日本官造紙烟 星象牌（斯達）櫻花牌（攖利）百合花牌（利利）均已馳名內外茲特選上等烟料加工精製雙仙鶴牌（隆沽來福）清香撲鼻佳美適口而價值極廉諸尊欲購可向敝行或躬至本行公司代理店西營口大德元採買庶不致誤謹此廣告

關東總督府管內（租借地ヲ除ク）土地家屋貸下內規

第一條 本內規ニ於テ土地家屋ト稱スルハ關東總督府管內ニ在ル官有ノ土地家屋營造物其他一切ノ不動產ヲ云フ

第二條 土地家屋ハ官ニ必要ナラザルモノニ限リ一定ノ貸下料ヲ徵シテ一般人民ニ貸下クルヿヲ得但貸下料ハ每月之レヲ前納セシムルモノトス

第三條 土地家屋貸下期限ハ一ケ年以內トシ繼續貸下ヲ希望スル者アル片ハ更ニ出願許可ヲ受ケシムルモノトス但事業ノ性質ニ依リ特ニ認可ヲ得タルモノハ此限リニアラズ

關東總督府經第一九六九號ノ場合ニハ貸下料ヲ徵收セズ

第四條 土地家屋ノ貸下取扱ハ軍政官又ハ軍務官（軍政官又ハ軍務官ヲ置カザル地ニ在リテハ其地ノ軍政ヲ所理スル官衙以下之ニ倣フ）之レニ任ス可シ

第五條 軍政官又ハ軍務官ハ貸下ダベキ土地家屋ノ等級區分及ビ貸下料ヲ定メ豫メ總督ノ認可ヲ受ク可シ但シ略圖ヲ添附ス可シ

第六條 同一ノ土地家屋ニ對シ同時ニ二人以上ノ借受出願者アル片ハ其貸下ハ競爭入札ニ依ル競爭入札ノ方法ハ軍政官又ハ軍務官之レヲ定ム可シ

前項ノ土地家屋ニ就キ第三條ニ依リ繼續貸下ヲ願出ヅルモノアリテ入札者中ニ於ケル最高額ノ貸下料ヲ納付スルトキハ其出願者ニ先借權ヲ有セシムルモノトス

第七條 借入人借受目的以外ノ用途ニ土地家屋ヲ使用セントスルトキハ更ニ出願許可ヲ受ク可キモノトス

第八條 借受人借受ノ土地家屋ヲ他人ニ轉貸シ又ハ當該土地家屋ノ上ニ有スル權利ヲ債務ノ擔保ニ供シタルトキハ直チニ貸下ノ許可ヲ取消スモノトス

第九條 土地家屋ノ借受人第七條ノ規定ニ違反シ若クハ天災其他避ク可カラザル事由ニ依ルニ非スシテ借受ノ日ヨリ二ケ月以內ニ借受ノ目的タル施設ニ着手セス又ハ着手スルモ其目的ヲ遂行スル意志ナシト認メタルトキハ其貸下ヲ取消スモノトス

第十條 借受人借受タル土地家屋ニ修繕ヲ加ヘ又ハ其他ノ工事ヲ爲サントスルトキハ願書ニ工事豫算書ヲ添付シ其地ノ軍政官又ハ軍務官ニ出願セシムルモノトス

前項ノ場合ニ於テ軍政官又ハ軍務官ハ工事豫算書ノ正確ナルヤ否ヤヲ調査シ許否ヲ決スルモノトス

第十一條 借受人前條ノ規定ニ依ラスシテ修繕其他ノ工事ヲ爲シ若クハ故意又ハ怠慢ニ依リ土地家屋ヲ荒廢毀損亡失セシメタルトキハ相當ノ賠償ヲ命スルモノトス

第十二條 借受人自已ノ便宜ニ依リ借受中ノ土地家屋ヲ返還シ又ハ返還ヲ命ゼラレタル場合ニ於テ其ノ土地家屋ニ加ヘタル工事又ハ定着物アルトキハ軍政官又ハ軍務官ハ相當ノ期限內ニ復舊工事ヲ爲サシメ又ハ其物件ヲ除去セシム可シ

前項ノ期限內ニ復舊工事ヲ終ラサルカ又ハ定着物ヲ除去セサルトキハ借受人ノ負擔ヲ以テ官自ラ復舊工事ヲ爲シ尚ホ損害アルトキハ之ヲ賠償セシメ定着物ハ之レヲ沒收ス

第十三條 前條ノ場合ニ於テ軍政官又ハ軍務官ハ必要ト認ムルトキハ第十條ノ工事豫算書及其他ノ狀況ヲ參酌シ相當ノ價格ヲ以テ工事及物件ヲ買收スルヿヲ得但シ此場合ニ於テハ關東總督府經理部長ノ承認ヲ受クルヲ要ス

第十四條 貸下クル土地家屋ニシテ官ニ必要ヲ生ジタルトキハ何時ニテモ其一部若クハ全部ヲ徵用シ又ハ返還ヲ命ス但シ止ムヲ得サル場合ノ外家屋ハ一週日土地ハ一月前ニ豫告ヲ爲スモノトス

第十五條 軍政官又ハ軍務官ハ停車場域內及其附近又ハ鐵道沿線上其ノ他將來ニ於テ軍事上行政上重要ト認ムル土地家屋ヲ貸下クルトキハ移築改築復舊工事等ニ多大ノ日時ト手數トヲ要スル永久的築造物ノ建設又ハ著大ナル變造ヲ施スコトヲ許可スベカラズ

第十六條 前條ノ規定ハ租借地內ニ在リテモ亦之レヲ適用ス

大日本政府特定
官製營口付紙捲煙草
滿洲一手輸入發賣
江副洋行
營口永世街

和泉洋行
本店開設在營口重盛街、發賣毛布、手巾、小布衫、襪子、錢袋、帽子、洋蠟、小刀及其餘各種雜貨一概俱全價值格外從廉克己、凡 中外仕商賜顧者、請速臨爲幸、
大阪府堺市熊野町 藤原謹啓

田中牛莊分莊
啓者本舖開設於東營口綏定門外經大阪丸三組精造東緊身洋式襪子羊肚手巾各樣新近進口來的貨寄於本舖代售格外從廉 賜顧者請光臨本舖面闘是幸
營口永世街第一八四號平野町
田中牛莊分莊謹啓

材木販賣
荒物
秋田洋行
本店 下關 秋田寅之輔商店

飯塚工程局材料出售
啓者本局今特與日本北海道天鹽木料公司商訂以日本輸船運到各種木料品質精良久己馳名四遠以之架造屋宅及製各色傢具無不合宜且價值格外從廉克已凡中外士商賜顧者請來本埠東營口元神廟街本工程局面議不悞再本十新到各種木料東洋炸子貨眞價實以應各主顧局急之需國本主人啓

雜貨卸商
在元神廟營口街
關東公司雜貨部

米國製
白麵發賣
大連市羽前町十八番
英組大連支店

工
營口元神廟前
飯塚工程局材料部
（電話百三十五番）
弊局土木建築材料品の各產地と特約を結び廉價を以て多少に不拘賣却仕候
一開御引立の程奉希上候
一北海道產松大角材外種々
一石灰、石材、敷石、碎石、煉瓦等
一日本石炭數種

東京電報

● **大觀兵式の御治定**　戰捷大觀兵式は愈々來る四月三十日と御治定司令官は大山元帥參謀長は兒玉大將指揮官は野津元帥と內定せり

● **大島總督歸任の見合**　本月三日東京を出發し古名屋山口に立寄り歸任の途に就ける大島總督には主務省の急電に接し遽に馬關より引返すこと爲り本十四日同地を發し再び東京に向へり

（以上二月十四日發電）

● **藏相の招待會續報**　坂谷藏相には十三日夜東京橫濱大阪京都名古屋の有力なる銀行家卅餘名を招きて公債募集に關する協議を爲せり井上伯及び高橋是淸氏も亦列席せり

● **捕虜審問の開始**　廣島にては今回歸還せる我捕虜の審問を開始せり

● **宮岡辨理公使の轉任**　宮岡辨理公使には大使館參事官と爲り米國在勤を命せられたり

● **目賀田韓國顧問の歸任**　目賀田韓國顧問は伊藤統監と共に歸任すべし

● **無賴漢の京城放逐**　京城にては愈々邦人の無賴漢三十名を放逐したり

● **滿洲博覽會評議會**　東京實業組合會は滿洲博覽會組織に就き評議員會を開く

● **第五回債券の抽籤**　第五回債券二十日抽籤を行ひ四回に分ち償還す

● **二法案の委員附托**　減債基金法案及び戰時稅繼續案共に貴族院にて特別委員附托と爲る

（以上二月十四日發電）

● **銀行家の應募決定**　藏相より協議の結果京阪其他の銀行家は利子五分、價格九十五圓、年限三十個年にて二億圓の內債募集に應ずることを決議せり

（二月十五日發電）

倫敦電報

● **米國議會の日本人排斥**　米國議會はアラスカより外國漁夫排斥の案を討議しつゝあり　該案の目的は日本人を排斥するに在り、

● **モロッコ會議の局面一變**　モロッコ會議に於て昨日は痛論ありたる旨獨佛兩國より半官的の通報ありしも昨夜半アルジエシラスより得たる電報に據れは局面頓に一變して不安の念消散せりと云ふ

● **佛露新條約の採用**　佛國議會は五十五票に對する四百〇七票の多數を以て佛露通商新條約を採用せり

（以上二月十三日發電）

雜報

● **露淸談判の成行**　露淸談判の成行に就ては既報の如く露國側に於て成るべく遷延政略を取り居るもの丶如く容易に進行せざる模樣あり殊に當初淸國側に於ては日淸談判當時の如くに兩國より全權大使を以て交涉せしめん意向にて其旨露國政府に交涉したるも露國政府は之に應ずることを肯せず僅かに北京駐在公使を以て交涉の局に當らしむることゝなしたるを以て淸國政府に於ても止むを得ず外部侍郎唐紹儀を以て談判委員に選定したるなり事情斯の如くにして兩國委員は正式全權を有せず所謂國際談判上の全權大使にあらず一々本國政府の訓令を仰ぎ交涉の步を進むべき談判委員に過ぎざるを以て當然談判の遲延は免がれざるべしと

● **日露海戰の教訓**　英國前海軍造船總監サー、ウヰリヤム、ホソイト氏は演說して曰く日露戰爭は軍艦の構造操縱上に關して英國專門家の豫想し及ばざりし教訓を與ふること殆ど之なきも訓練の精、編制の妙、作戰計畫の周到、戰術の變通司令官の沈着剛勇の總て戰爭に緊要なるを示せるは此れ實に我等の取て以て教訓とすべき所なりと

● **艦艇補足計畫**　軍艦補足計畫の全豹が本期議會に現れず政府は單に本年度限りとして七百五十萬千圓を要求したるを以て衆議院豫算委員分科會に於て種々の質問出でたるも終に明瞭なる答辯を得ざりし由なるが聞く所によれば同計畫は三十九年度豫算編制の際不成立に歸しだるも四十年度の豫算には是非計上せらるへくその總額は約九千餘萬圓（既に臨時費にて支出又は三十九年度支出の分を除き）にして四十年度より向五ヶ年即ち四十四年までの繼續事業とし又造兵造船復舊費は約六千萬圓にして前同樣の繼續計畫とすべき方針なりといふ

● **二年兵役建議說**　衆議院委員會に於て寺內陸相は二年兵役に關し現在の師團數にて三百萬圓の經費增加を要する旨說明したるが今回衆議院に於て現在の陸軍費を增加せざる範圍に於て步兵の二年兵役制度を採用せん事を建議す可き計畫中なりと

● **新民府近信**（二月十三日發）

▲蒙古を望み遼河を帶び奉天錦州を控へたる新民府の將來は邦人の最も注目せざるを得ざるの要地なるへし日淸協約の結果開市場と爲りたれは將來に處するの計畫は豫め之を今日に於て決定せざる可らず將來に處するの計畫とは何ぞや他なし居留地の設定即ち之れなり我軍政官夙に看る處あり夫れ〳〵淸國官民と交涉を重ね遂に現停車場附近に於て約一百萬坪の土地を買收するに至れり嗚呼愉快なるかな來れ邦人百万坪の平原をして空しく牛馬の馳驅に委する勿れ蒙古貿易に從事し遼西に雄飛せんとする事業家は來つて新日本市街の住民と爲れ▲在留邦人約三百例に依つて盛んなるは料理店兼旅館なり阿嬌のセテかたは營口などの及ぶ處にあらず天津來的あり營口來的あり鼻下長連の多き當地を擾さ遯すこと一ト方ならず或るものは既に數千金を懷にして凱旋を奏して天津に引揚げたるあり或るものは蹈み止つて慾の上に慾張りつゝあり紅團粉陣の戰闘愈々激烈にして二ケ年間生死の間に貯へたる軍用金も早や不足を告げ果ては馬を賣り劍を賣飛すもの鮮からざる位なり觀察とか遊歷とかにて來新するもの孰れも一驚を喫して逃走せざるものなし玆に於て我日本人會は高潔なる閑雅なる一のホテルを附屬事業として設立するの企てあり既に決定したれば不日起工の運びに至らん此閑雅なるホテル開業せんか旅客に便利を與ふる蓋し意想外にあらんなり▲當地占領前までは或る重要なる任務に服し万死の間に馳驅して偉功を奏し既にして新民府を占領するや軍務署長官として敏腕を揮はれたる井戶川少佐は愈々本日當地を出發し奉天を經て一時歸朝の途に就かれたり當地の將來は少佐の手腕に據らざる可らざるもの頗る多し在住民一同は少佐の一日も早く歸任せられんことを熱望に堪へざるなり一路平安帝都に凱旋せらるゝを祈るなり

● **營口と大連の比較**（承前）

營口を根據に遼河を上下する所の船舶の經費は些少也一隻に三人の船頭ありと假定せば實際に於ては一日の費用は二十錢內外にて足る可し假に一人の一日の衣食費を拾錢と見積りて計算するも一隻の經費は參十錢以上に及ばざるに非すや即ち若し鐵道に於て挑戰せんか船舶は苟も其の收入一日三十錢に不足を生ぜざるに限り應戰を辭せざる也鐵道は一日一哩の収入五十圓以上に相當し競爭を開始し船舶は一日一人の收益三十錢以上に相當し競爭を開始す更に鐵道の競爭は政略の爲にして船舶の競爭は生活の必要に基くものとなり競爭の決心に於て將た又た、其の餘力に於て鐵道か　到底船舶の敵に非るは智者を俟ちて後に知らざる也、且つ夫れ東淸鐵道は帝國政府の運轉する者なりと雖も運轉の費用は五千万民衆の支出する所の者とす政府に於て假令、競爭の政策を維持せんと企圖するも、勝利の見込非る　競爭永久無限の支出は遂に五千万民衆の承諾せざる所也、之に反して遼河の船舶は競爭唯た夫れ其意の欲する所のみ、敢て復た何者の競爭、を妨害する者非す競爭愈々激烈を加へて決心益々鞏固を增すは最後の勝利を獲得する以外に生活の方途なき船舶に於て當然の順序也

想ふに東淸鐵道と遼河の船舶との競爭は帝國政府に於て國力を傾注し鐵道を援助せざるに於ては鐵道の勝算、到底見込ある無し不知す帝國は國力を傾注し貴且つ船舶を屈服せざる可らざるの必要之れあるか一万有餘の船舶を遼河の濁流以外に放逐するに非らされは滿洲の經營、竟に復た其道非すと爲すか、更に政府に於て斯の如き無謀の競爭に國力を傾注すと假定し帝國五千万の民衆は果して其支出を承諾するか、論者或ば更く、鐵道と船舶との競爭は運賃以外に於て尙は競爭の餘地多數也、運搬の安否、時間の遲速の如き即ち其一にて而して共に鐵道に於て勝る所の者と爲すと、夫れ然り、雖然、試に今ま、滿洲內地の輸出入貨物に就て之を見るに、輸入の貨物に於ては勿論輸出の貨物に於ても亦た敢て輸送の急速を必要とする物尠らし豆粕は滿洲の特產也、然れとも其の需用の季節は六七八九の四ヶ月也、此間に於て輸出すれは以て優に需用に應するに足る、其他の品と雖も皆な然り、夫れ既に貨物の性質に於て需供の關係に於て急速を要せず、輸送に於て鐵道、急速なるも將た競爭上何程の勝算ある、更に論者の所謂、輸送の安否の、如き汽車も船舶も五十步百步のみ、殊に船舶の操縱を以て生計唯一の方途と爲し之を祖先に受けて子孫に傳ふ、船夫の周到なる注意は、其の輸送上に關する危險の少き事寧ろ汽車にも勝るあるを覺ふ、即ち輸送の安否も亦た以て深く競爭上の爭點と爲すに足らざる也、然かも敢て滊車の勝點に加入し晏如たるは未た實際を知らざる者机上の空論と同視するも可也、

之を要するに鐵道と船舶との競爭の勝敗を卜知るは唯た運賃の關係に在るか運賃より觀察すれは鐵道は到底船舶に對抗して優者の地位を獲得する能はす差し以上鐵道と船舶との生活の必要費より兩々對照せし論述は以て能く之を判するに足るへし

夫れ營口の運命は遼河の掌る所にて大連の運命は東淸鐵道の左右する所に係る、（勿論大連の良港の如き營口との比較に於ては問題物也）即ち營口の繁榮か大連に合併せらるゝの日は前述せし如く東淸鐵道に依り遼河か非常に寂漠となり今日の盛觀を觀る可らざるに至りたるの時に在りと雖も、遼河は東淸鐵道に依り敢て以て今日の盛觀を減する者に非す夫れ既に遼河に於て異狀無し何んぞ獨り繁榮に於て異狀を呈せんや營口の悲觀者の中には又た或は大連より大石橋迄の運賃の一噸一哩二錢なるに反して營口より大石橋迄の運賃五錢なるに對照し營口以北に於ける競爭に於ては暫く船舶の勝利に在りと、觀るを得へけんも斯の如くんは、將來に於て今日營口に出入する所の滊船も大連に出入し營口出入の滊船は非常に其數を減少せざる無きかを憂ふる者在り然れとも亦た之れ杞憂也大連と大石橋間の運賃は甚た安しと爲すも實は船賃に比較すれは三倍以上に相當し滊船に於て一圓の運賃を要す、可き貨物は滊車に於ては實に三圓余の運賃を要す假令將來に於て滊車の運賃今日の半額に下る事あるも、貨物は尙は滊船に運命を托する方遙かに利益を覺る也、更に復た到着の時間に就て兩者を計量するも、其差は僅に一晝夜內外に過ぎざるを觀る、假令之を一晝夜の相違あり、苟も、時間を競ふ可き急速を必要と爲す貨物の外は依然として滊船に依り從來の如く營口に出入するや復た疑なし、而して此の僅少の時間を競ふ如き貨物は實際に於て甚た少きに〇て余は營口の汽船も亦た遠き將來は知らず、近き將來に於ては今日に比較し敢て以て減少せざるを確信する者也、嗚呼、之を一万ジャンクの運命に觀察するも悲觀するに値せす更に、港灣出入の汽船に觀察するも全く然り、營口の將來知らす何物に依りてか、今日の繁榮を剝奪せらると爲す、徒らに悲觀する者、請ふ率に一考せよ、識者は寧ろ、其の淺薄を冷笑せん也、

（未完）

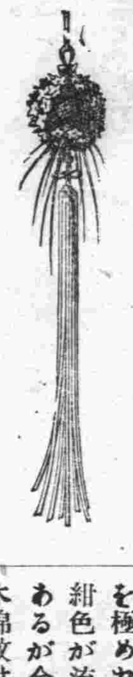
● **大連の鐵道昇降旅客**　一月中に於ける大連の鐵道昇降旅客總數は一万四千六百三十一人にして內乘車人員七千一百七十二人降車人員七千四百五十九人（旅順線より二千八百八十八人本線より四千五百七十一人）なりといふ

● **奉天日本人會成立**　既報の如く奉天日本人會設立は其筋の許可を得たるを以て去る十一日役員選擧を行ひ愈々成立することゝなれり會長は正金銀行奉天出張所主任井上一男氏副會長は關東公司主三谷末次郎氏評議員は小笠原氏外十數名なりと云ふ

● **ち號貯蓄債券賣出し**　正金銀行當地支店に於ては本日よりち號貯蓄債券の賣出を開始したるが今回の債券賣出高は餘り多からざる由なれば購買希望者は一日も早く申込み後れて悔むと勿れとなり

● **軍政署居留民係の繁忙**　營口は不景氣〳〵と傳へらるも渡來者陸續押掛け來るは如何なる現象なるや之が唯一の證據とも云ふべき當軍政署居留民係の戶口は常に人の山をなし昨今の有樣にては到底整理の途なきを憂ひ當局者は停車塲にて切符を賣渡す如く種々の出願人に一々番號札を渡し順番を以て受附けをなせり現に記者が此程目擊する所に依れば四十三番の札を携帶せる者を見受けたり今試に當日の諸受附件數を列記すれば到着屆十三件、旅行歸着屆十四件、旅行屆十九件、出發屆四件、居留認可證下附願十五件、營業願十七件、旅館料理店賣上屆四十四件名義變更願二件、等實に百三十余件の多きに達し之に一々整理をなすに至つては實に繁忙も察するに餘あり

投書かで



▲周易判斷師朴捻老樣に御賴申上ます此次に元神廟街の東京館支店藤玉殿の判斷を願ひます是非〳〵（知体生）▲追々とお鉢が廻りますから暫く我慢さつしやれ（朴捻老）▲僕は某料理店の親方とか云ふ奴が近來抱へ妓に人道に外れた酷な事をなすと云ふ風聞を耳にせしが事實然らば救世軍を組織して彼等憐むべき境界より救ひ出さんとす同感の人はないか（救世軍少將）▲近來料理店の不振が一層甚敷爲めか親方連中が諸所に集り八入とか云ふ賭博をやつて居るのは事實ですよ（穴知男）▲五尺の躰を持つた立派な男も淫賣婦には値打ちがない夫れが爲めか或る僕の知人の鼻垂男は情け知らず無慈悲な奴と近所の大評判（湯屋の三介）▲或お醫者の會計さんは〇〇と何時もいちやついて居る外聞が惡るいぢやありませんか（目擊生）▲日本館の喜代八婆さんは舞臺に上ると大變若かく見へるからコリャ馬鹿に出來ぬと思つて居たら踊りが濟んで棧敷の火鉢にあたつて居たのを見ると矢張頭の巔邊から御光がさして第三の紀元踊其儘であつた

● **花月遊人の不埒**　斯く見出しを書けば俳句の宗匠でも何か不埒の事をなせし如く早合點せらるゝ讀者もあらん、併し是れは少々事柄を異にせるお話なり春とは云へど今日此頃の寒さでは野遊び山遊びさては川遊びなど思ひもよらず一寸外出するもヤレ外套ぢや頸卷ぢやと種々樣々の防寒具を躰に纏ひつけて出ねばならぬ仕末なれば自然一室に閉ぢ籠りてストーブの暖たかみに其日〳〵を送りつゝある仕宜なるが玆が所謂昔聖人の謂にもある通り小人閑居すれば不善をなすの道理で夜陰を待つて此處彼處の料理店にて綠酒紅燈の下に意氣な遊びもありとか聞えけるが夫等はまだしも自分の金をパッパと撒きちらして猫や狐の空涙に內の妻君の角突面を打忘れて有頂天となつて居るのは先づ罪の無き方と恕して置くも許されぬは近頃嚴めしきお役所の近所には〇〇洋行とて雜貨を商ふ店の奧座敷を本陣としての車座雪にはあらぬ月見花見四季折々の花には鳥が鳴くカラスが四貫でヌケ五貫と血眼になつて洒落れたる遊藝は家の主人公二人に炭屋の老爺、雜貨やの亭主に料理店の婢と仲居夫れに本職の方々打交りて夜な〳〵五六人の人影を障子に映ずるのことなるが餘り興に耽り過ぎては天に口あり壁に耳ある世の中今に珠數繫ぎになつてはならぬがと人の痛氣を頭痛にやんだ投書がひら〳〵と舞込む因に記者も集合の連中一々姓名及び慥な證據も熟知せるも今度は特別に見逃すなれども尙改めざればビシ〳〵名前を掲載して筆誅を加ふべければ皆々御用心〳〵

● **でたらめ草**　紫の朱を奪ふを惡むなどいふこともあるが此頃米國では派手な色よりもヂミな紫色が一般に流行するげな▲我邦でも一時大流行を極めた蝦老茶袴も近頃は滅切り廢れ氣味で紫紺色が流行を代表して居るとは豫ねて聞く所であるが今は花の都の山の手邊りに婦人の黑木綿紋付衣服が大流行のさうぢや▲日露戰爭を區切りとして今後に於ける各國民の嗜好は華美を去て質朴に赴く傾向あるは注目に値すべき現象である併し支那人の無暗に赤い色を好むのは却々十年や二十年で濟度が出來ぬであらう（△△生）

汽車發行

▲上行車時刻表

車站名	開點 午分	到點 午分
新民屯至溝邦子	上六、〇〇	上九、五七
營口至山海關	上八、二〇	下六、〇〇
山海關至唐山	上一二、一八	下六、二〇

▲下行車時刻表

車站名	開點 午分	到點 午分
北京至山海關	上八、〇〇	下六、二〇
北京至天津	上一一、二〇	下五、四一
[illegible]	下二、四〇	下八、三〇

野戰鐵道普通輸送列車發着時刻表

大連奉天間下り列車

驛名	發着	時刻
大連	發午前	九、〇〇
金州	着	一〇、〇九
	發	一一、二九

驛名	發着	時刻
遼陽	着午後	三、五〇
	發	四、五五
大石橋	着	一〇、三二
	發	一一、三五
金州	着翌前	二、二〇
	發	三、一〇
大連	着	五、三三

旅順大連上り列車

驛名	發着	時刻
旅順	發午後	二、〇三
大連	着	五、三三

大石橋營口線下り列車

驛名	發着	時刻
大石橋	[illegible]	[illegible]

天氣

營口地方　自昨日午後六時至本日午後六時

社告

東北凶作地窮民救恤義捐金募集

東北二縣の凶作は國家近來の大慘事たり之を天保年間の大饑饉に比するに優るも讓らず各官廳及び地方有志は夙夜救濟の道を講ずと雖も窮狀日に益ゝ甚しく翅に地方自治機關の之が爲めに停止し國民教育の之が爲めに沮滯せるのみならず幾十萬の窮民坐して死を竢つ能はず山に木皮を拾ひ野に草根を掘り僅に露命を繫ぐに至る而も今や時冬天に會し饑寒交々至りて復た食と衣とを得るの道無く父母妻子東西に流離して乞丐と變じ餓莩路に横はるの慘劇將に臻らんとす是に於てか我內地に於ては東北三縣の舊藩主貴衆兩院議員等相謀り東北三縣救恤會なるものを起し以て是等窮民救恤の方法を講じ在京各新聞通信社亦其事を贊して均しく義捐金募集に着手せり我社固と[illegible]て當之に足らずと雖も其慘狀を聞くや默止に久しく同情の念轉々已む能はず遂に讀者を初め廣く義者に訴へ以て我が同胞の窮民の急を救はんとす即ち江湖の君子願くは本社の微意を諒とし應分の義金を投ぜられんことを其規定左の如し

一、義捐金額は一ノ拾錢以上とす
一、受付期限は二月二十八日迄とす
一、義捐金は直に本社に送附せられたし
一、本社が受付たる義捐金は毎日正金銀行に保管預入を爲すべし
一、期限後に之を一纏めとし東北三縣救恤會に送付し其配分方を托すべし
一、義捐者人名は本紙廣告欄に掲載し受領證に代ふ

明治三十九年二月七日
滿洲日報社

雜報

●運河開鑿測量の議

戸水生寄

此議は、在遼陽、古森藤次郎氏の發案に係るもの今之を敷衍し、貴社に投して世の同憂の志士に論く、

滿洲發展の富源は、惟た撫順、烟臺の兩大炭坑なること、識者を待て後知らず、今將た何をか言はん、石炭素より廉價の燃料、運輸の便否に因りて、價値に高低をなす、憶ふに斯の寶庫は（烟臺炭は無烟炭にして層五尺已上、九州炭に優る多し、撫順炭は有烟なれと、層百何十尺、天下無比なりと謂ふ）從來清人夢寐たも知らす、僅かに露人着鑰を開き、日露戰捷に因りて、我に贏獲するを得、而して若し斯の天惠を苟且にすれは、數万の生命を犧牲にし、數十億圓を抛ひたる戰捷を賊するものなれは、滿洲發展に於て、片時も等閑に付すへからさる大問題なりとす、獨り憾む、斯の寶庫も滿洲の一角に僻在して、運輸の利便に乏しく、唯た東清鐵道の輸運と、遼河上流の太子河の水運あるのみ、今之を數理に徵するに、即ち撫順の產出高一日約五千噸とし、又た烟臺坑の產出高一日約二千噸と假定すれは、一日の合計七千噸となり、之を今の鐵道輸送力即ち一日平均十六回と假定して、一回毎に七噸貨車二十個を連結すれは、即ち一回百四十噸にして、十六回には一日平均二千二百四十噸を輸送するに過ぎす、控剩したる四千七百六十噸は、之を水運即ち渾河、太子河に待たさるへからす

然り而して太子河及ひ渾河の河脈は、羊腸迂回して、舟楫するに、十數日の日子を要し、多大の運賃を拂ふ、兎角廉價なる石炭をして、高價金よりも貴からしむるに至る、恰も夫の太子河、渾河の流水の迂遠なるに異ならんや、若し之を直截して、運河を開通して、烟臺撫順の中間の河源を以つ太子河運河をして、奉天遼陽より營口に至る直流ならしめは、今の太子河、渾河の水流距離に、四分の一に減縮せしむへし、然らは即ち寶庫の石炭は日子と運賃とに於て非常の減退を見るに至らんか、斯して多大にして廉價なる石炭を產出し、需要供給を充たし、沿道の諸工業を發達せしめは、遂に滿洲發展の目的を達成するに至るへきを知るへし、且夫れ從來滿人の高粱の如き、收穫寡少なるものを、好て耕作するは、一に防寒の爲め燃料に待つあり、若し廉價の石炭を多大に供給せしむれは、或は高粱の耕耘の、他の收穫多きものに轉換するを得へし、從て又た農業改良の端を啓くに至るに庶幾ん乎

惟た夫れ運河開鑿は、至難至艱の大工事にして、容易に成功すへからす、然れとも、數万の生命を犧牲にし、數十億圓の高價を拂ひて、贏得たる日露戰捷の滿洲發展に、想ふに之より世に籌謀大策あらさるへきなりと、

其設計は

遼陽、營口間運河工事豫算

一、太子河撫河を直截する直徑里程三十里と假定す（五里は河敷を使用す）即ち工事里程を二十五里とすれは、丁數にて九百丁、間數にて五万四千間となる
一、河幅十間、深さ十二尺、行一間十二尺、深さ立坪二坪となし、幅拾間とすれは行一間立坪二十坪となる、
一、一坪掘上賃五十錢と假定すれは、一間二十間にして金十圓なり、
一、總間數五万四千間とすれは、費用五十四万圓を要すと假定す（素より杜撰の設計誤算なき必すへからす敢て專門家の是正を待つ）

惟た夫れ至難の大工事、之れを成就するは、上官府殊特の保護を仰き、日清兩國富豪の努力盡擇を待たすんはあらす、日露戰爭に打勝たる平和克復の第一新年の勅題「新年河」とあるは、滿洲發展の運河工事を唱道するは、吉兆の圖識に應するにあらさるや、敢て同憂の志士に問ふ、

●昨年の淸韓貿易（下）

（阪神兩港の貿易）

▲對韓輸出貿易　對韓輸出品中大阪港よりせるものは千九百五萬九千百九十二圓神戸港よりせるものは百二十八萬二千五十六圓合計二千三十四萬千二百四十八圓にして之を前年に比すれば大阪港に於て五百三十二萬千四十五圓即ち三割九分神戸港に於て十三萬八千六百六十六圓即ち一割六分合計に於て五百四十五萬九千七百十一圓即ち三割七分を增加せり今其重なる品名を擧ぐれば左の如し（單位圓）

	三十八年	三十七年
精糖	五〇二,四〇一	一,五五五,六五四
淸酒	九六九,八八八	八二四,二三八
綿織糸	三,一六〇,〇九四	二,一二五,五七一
白木綿	二,〇八六,二五〇	八九六,九八八
金巾及シーチング	一,九四四,五八四	一,三八六,四二一
天竺布	二六六,〇五七	一五一,四一七
紙巻煙草	九三二,五九〇	九七一,二八〇
縮莚類	五二六,六四〇	三四〇,〇〇八

右の表によれば前年より增加せるものは精糖の三十萬六千圓（十五割六分）淸酒の十四萬五千圓（一割八分）綿織糸の百三萬四千圓（四割八分）白木綿の百十八萬九千圓（十三割三分）生金巾及びシーチングの六十萬八千圓（四割四分）天竺布の十二萬二千圓（八割）縮莚類の十四萬六千圓（四割弱）等にして其減少せしものは只紙巻煙草の一品に過ぎず就中綿織糸及び綿布類の輸出が前年に比して非常の暴騰を告げたるは韓國經濟界の一大進歩を示せるものにして輸出貿易は年を逐うて增進するものあらん只其需用する所單に實用を主として奢侈品の輸入少なきは何ぼその國民文化の進まさるに由るものなれとも邦人の韓國經營は將來に於て漸次其需用を生するに至るべし

▲對韓輸入貿易　其輸入貿易中大阪よりせしものは二百七十五萬八千六百九十三圓神戸港よりせしものは九十八萬九千七十四圓合計三百七十四万七千七百六十七圓にして前年に比し大阪に於ては七十三萬千六百九十七圓即ち二割一分を減じ神戸に於ては十三萬八千六百六十六圓即ち一割六分を增加し合計にて於て五十九萬三千三十一圓即ち一割四分を減少せり今其重なるものを擧ぐれば左の如し（單位圓）

	三十八年	三十七年
米	一,〇八二,〇八〇	一,三九二,〇四七
大豆	一,四四六,九七九	一,四二一,三二一
水牛及牛皮	五五一,六二九	一,〇〇〇,九六六

即ち米及び水牛牛皮の減少は輸入貿易の減却を生じたる主因にして米は廿萬圓水牛及牛皮は四十萬五千圓を減じたるものとす

これを要するに昨年に於ける淸韓貿易は戰爭より起因したる障害の前年より少かりしと及び寧ろ我が貿易を獎勵すべき源因の淸韓に存在したるにより空前の良成績を得益ゝ我が需用國たらんとするの傾向を事實の上に云せるものと謂ふべきなり

玉島少女

其五　壽山

夫の忘れて來た時計は、一週間ばかり經つて差なく戻つて參りました。下婢が受取つて、私に手渡したので、ゆくりなく見ますと、四角の少さいボール箱に、紙の小片れを張つて、表面には、行先の宿所を記し、裏には備中國金神驛前、吉備屋某しと明かに書いてあります。丁度、夫が火鉢の前に坐つて居たので、これを渡しますと、さア、時計が返つて來たと大喜悅で、急いでこれを解くと、古新聞で、粗雜に包んであるのは、その時計、其の鏈

「田舍の人は流石に律義だな。」

と言つて、夫はその時計の陰翳を絹布で、拭ひました。

これから後は別に變つたこともありませず、夫は毎日學校に出勤しますし、私は下婢を相手に家のことやら、長女のことやらに忙しく日を送りました。

ある日………、さう、あれは確か五月頃の事でしたらう。私は不思議な夫の素振を見ました。私は鳥渡した用事があつたので、何氣なく、二階に上つて參りますと、頻りに長い手紙を書いて居た夫は、急に振返つていきなりそれを卷いて押隱して了いました。こんな事は今まで、ついぞなかつたことで、私は非常に不思議に思ひました。い〻え、それも五六日前に名を匿した一通の手紙が參つて居らなかつたならば、それほど氣にも留めは致しませんでしたかも知れませんが、何うも其手紙と言ひ、其の今の態度と言ひ、何か秘密のことがあるに相違ないと、私は電光の閃くが如く、ある事を感じました。

「何誰に上げる御手紙。」

私はかう尋ねました。

「い〻や、岡山の、、、、」

「一寸見せて下さい。」

「見たツて仕方があるものか。」

「見せたツて好いでせう。」

「つまらんよ、男の手紙なぞ見たツて仕方がない。」かう言つて、急に氣を替へて「それも、島田のやうな面白い手紙なら好いけれで………ほんの俗用だから。」

私は質問を變へました。

「此間、名を匿した手紙が參りましたね」……

「うむ……。」

「あれは何處から來たのですの。」

夫は平氣で、書簡入の中から、その手紙を探しました。

「これか。」

「え、それ……」

「これは岡山に居る昔の學校の友達から來たのだ。」

と言つて、私に渡しました。私は嫉妬がましくも、これを展げましたが成る程これは友人間の戲談ばかり。私は寧ろ私のはしたないのを恥かしく思ひました。■

「お前は己を何うか爲たと思ふのか。」

「い〻え、左樣じやありませんけれど………」

「乾度、お前は私が秘密で、何か爲て居ると思つて居るのだらう。」と言つて笑つて、「大丈夫だよ。己は何も爲やせんよ。お前に秘密で、事を爲はせんから。」

「さう思つた譯ではないのですけれど………。」

私は返す〲も恥かしく思ひました。淸い夫の心を疑ふとは、實に我れながらもはしたない限り。夫は決してそのやうな性質ではありませんものを。

で、私は根が夫を信用して居りますので、すつかり其疑を晴して了ひました。

一月、二月と經つのは早いもの、月日は飛鳥の如く過ぎ去つて了ふのでした。この過ぎ去つた月日の間、それでも私と夫との間にある大きな溝が穿たれたのは事實で、長女の產れぬ前の樂しい生活と今とを比較して見ますると、實に雲泥の差あるを發見しました。けれど其差は絕壁から絕壁へと移つたやうな急劇なものではありませんので、靜かにその徑路を辿りまするとと、かうなる道順に少しも不自然な處は認められぬのでありました。即ちこれがさびしい、悲しい人の世の常態で、今迄のは寧ろ靑春の夢の名殘の歡樂であるのです。

廣告

東北凶作地窮民義捐者芳名

一金拾圓　營口捌荷洋行　長谷川吉次郎
一仝二圓　同　野間芳太郎
一仝一圓　同　相原良造
一仝一圓　同　江藤金八
一仝一圓　同　石本濟吉
一仝二十圓二十錢　營口永世街　喜久洋行員一同
一仝五圓　英國人　一同情者
一仝八圓　（第三回追贈）　米國人無名氏
計四拾八圓二十錢
通計壹千一百六十四圓六十五錢

告示

一本年一月分土地貸下料未納者にして本月盡日迄に尙納付せさるものは其土地の貸下を停示す

明治三十九年二月十二日
營口兵站司令官　與倉喜平

森病院

一診察　自午前八時至正午十二時　自午後三時至午後五時
一往診　午後三時より
△患者の入院治療を諾す
△貧困患者の施療は正午十二時より一時迄
產婦の入院を諾す（取扱主任產婆大塚しげ子）
院主　森爝
醫長　鈴木昌平
營口永世街（電話一五五番）

藝妓仲居新來御披露

此度新たに內地より藝妓仲居十數名を連れ來り候間御光來の上御評判の程願上候　草々

營口　高砂ホテル
高砂（電話一四五）

北京　扶桑旅館
東單牌樓大街路西
客室淸潔料理鮮新

M. Iizuka,
CONTRACTOR,
ARCHITECT AND CIVIL EGINNEER.
Plans and specifications made to order.
ESTIMATES SUBMITTED.
MODERATE RATES.
No. 151 Yuwahsinmiao
Ying Kow

諸鐵工製作
鑛山船舶機械鐵工
輕便鐵道附屬鐵工
土木建築用鐵材料
其外鑄物諸般
（營口緞定門街　シツブ商會東）
川喜鐵工場

消火器
右今般新荷着仕候間至急御申込願上候
英治洋行
營口[illegible]北街

西海洋服店
歐米各國最新流行形
永世街一四一（森病院三軒目）
（電話百二十七號）

矢野洋行
Yano & Co.
電話一三七　Telephone No. 137

諸雑貨、家道具類、呉服反物、蒲團類、婦人用小間物、下駄、足袋、食料品、其他種々

今回新荷着致候間直段も極安價を以て御用に可應候に付何卒多少に不拘御用命の程偏に奉願上候

謹言

石材、碎石
並に
自家製造　廉價販賣
瓦、煉瓦

順吉洋行
營口元神廟街四十號第二號

満洲大販賣所

營口出張店は結氷中引揚ゲ候ニ付御用向ノ御方ハ遼陽出張店ヘ御來店アリタシ

遼陽停車場前
池上出張店

奉天
池上出張店

風薬
登録商標

上咳
祛痰散

哮喘氣急、多痰喀血、咳嗽痰稠、各種喉症、胃痛胸痛、甚至痳臥不安、飲食不進、或諸醫束手百藥罔效服用此散不論初起遠年立刻見效異水火既濟之良方也

◎たんせき一切
◎肺病の特薬
◎ひきかぜ

醫藥醫料器械
賣藥寫眞藥
大販賣東瀛大藥房
營口永世街（西順泰東首）

澤亀之醇良ニシテ風味アル事

札幌ビール
朝日ビール
並ニ

政府專賣口付紙卷煙
朝日
大和

酢
醬油　瓶詰樽詰

菓子色々
罐詰

洋酒類取次販賣

醸造發賣元
大阪府堺市九間町
北海道小樽湊町
臺灣臺北街書院
臺灣基隆街石牌
臺灣臺南街下南河
北海道函館區辨天町
清國遼陽城内西街
清國大連監部
清國牛莊灣東營口

宅合名會社
本店
小樽支店
臺北支店
基隆支店
臺南支店
函館出張店
遼陽出張店
大連出張店
營口支店

東營口郵便局東隣
島田洋服店

新民屯停車場前
同支店

會席料理
營口警務課前南に入る
三日月

奉天日本旅館
瀋陽館
家屋宏壯清潔
接待優遇懇切
開業
開放全時ニ
奉天小西門外大街路北

SPECIAL LIGHT
(PILESNER BEER)

スペシヤルライト賣出し

スペシヤルライト、はピルスナビールにして此種のビールは日本に於ては弊社始めて之を釀造せり
スペシヤルライト、は高價を拂ひて元料を特選せり
スペシヤルライト、は其味輕くして高尚なり

釀造元　大阪朝日麥酒株式會社
營口發賣　關東公司雜貨部

標子
木板
料木
發賣

營口青堆子
清水本局

一關内外蘆漢鉄道貨物運輸
但シ營口新民屯間ノ鐵道輸送ハ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候
一海關手續
但勢店事務所及郵船會社代理店内派出員ニテ事務取扱
一鈔關手續
但西營口鈔關裏手東玉昌方ニテ事務取扱
一船舶荷物販扱
一其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業

右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候

營口西北街第二七二號
大清通運公司
營口支店

萬事勉强乘車乘船好位置
營口中央市場前
旅館東京樓
店主　熊田兼次郎
（電話百七十八番）

西洋料理仕出し御需應にず
即席和洋料理
東京樓支店
（電話四十四番）

景品御料理御披露

私儀去月中原料並に道具仕込みの爲め歸朝致し居ましたが此程種々の畫品を仕込みて立歸りましたを幸ひ平常の御引立に酬ひ度と思ひますので此際更に大勉强をしまして從來の御料理を吟味します外新に左記の價額にて釜飯湯豆腐の二品を加へ籤引景品を差上ます

新御料理
加藥飯　御壹人前　銀五拾錢
親子飯　仝上
湯豆腐　一鍋壹　銀貳拾五錢

但釜飯は加薬親子何れでも御二人前以下は御調進出來ませぬ景品は御勘定（銀貳圓）に對し一枚の割にて景品券にて差上げ畫き今回の籤券數二千枚を出し盡しました時に有志の御方々の御立會ひを乞ひまして籤引致し景品券を引換へに差記の景品を進せます何卒陸續御入來之程を偏に希ひます

景品目錄
第壹等　銘酒澤亀　七樽
第貳等　仝　三樽
第參等　五匁附純金指環　（代價二拾圓）　壹個宛
第四等　二本　銀側懷中時計　（仝拾五圓）　壹個宛
第五等　三本　旅行用皮製カバン　（仝拾圓）　壹個宛
第六等　四本　旅行用化粧道具　（仝八圓）　壹個宛
第七等　五本　膝掛け　（仝六圓）　壹枚宛
第八等　六本　絹紬　（仝五圓）　壹反宛
第九等　七本　メリヤスシヤツ　（仝五圓）上下　壹組宛
第十等　八本　卷烟草入　（仝貳圓）　壹個宛

明治三十九年二月十日より

元神廟街
翁亭
長谷川金次郎

大日本帝國醫科大學衛生試驗所御用
摂津灘石崎合資會社釀造

醇良清酒
澤之鶴

満洲特約大販賣

裕和盛販賣品目
○酒保用品雜貨
○日本酒澤之鶴樽詰瓶詰
○洋酒食料品各種
○和洋煙草各種
○菓子類各種

清國營口西北街
裕和盛號支店
電話八十一番

和盛本支店所在地
○本日本長崎梅香崎
○支店清國、芝罘
○支店韓國京城、仁川、木浦、旅順、鐵嶺、

澤之鶴は美天ある定に評既
裕和盛は清商中日本通の張本

時刻
塘沽至北京　上六、〇〇　下二、〇六
天津至北京　上一二、〇〇　下五、二〇
山海關至北京　上一八、〇〇　下六、四五
唐山至山海關　上六、〇〇　下一、五八
山海關至營口　上七、〇五　下四、五五
新民屯至溝邦子　上三、〇〇　下六、五七
上り列車　奉天着午後　一二、〇六
奉天發午前　一一、〇〇
大連　發午前　七、三〇
旅順　着　一〇、四九
營口　發午後　一〇、二五
大石橋　着翌前　一二、二〇

宮門抄

十八日
禮王等得賞銀兩謝　恩　佶公因指婚謝　恩　唐紹儀等謝調授缺　恩　與安由藉回京請　安　內務府奏派致祭
宣仁廟　派出慶公　掌儀司奏二十一　二十三日祭
奉先殿　派貝子　恭王行禮
召見軍機　唐紹儀
皇上明日午正至　紫光閣筵宴蒙古王公
十九日
禮王等遇有派出　陵差賞給盤費銀兩謝　恩　醇王因伊子命名謝　恩　胡燏棻謝署缺　恩　薩廉桂伯各假滿請　安
召見軍機　佶公

上諭恭錄

十八日奉
上諭工部左侍郎仍着胡燏棻兼署欽此
上諭醇親王載灃之第一子著命名溥儀欽此
十九日奉
上諭胡廷幹奏查明上年江西被災各屬分別緩征遞緩新舊錢糧等項開單呈覽一摺等因欽此

奏議

黑龍江將軍程　奏保辦理蒙旗荒務及交涉重案人員摺
奴才程德全跪　奏爲札賚特蒙旗荒務現已一律報竣謹將在事出力人員擇尤保奬以資鼓勵恭摺仰祈　聖鑒事竊查札賚特荒務自光緒廿六年開辦以來始以兵戈假擾領戶觀望不前繼以蒙旗阻撓辦理諸多棘手又因賊匪充斥道塗梗塞其爲難情形不堪縷述自上年變章後各員司耳目一新收價始有起色本年復經奴才改委四品銜選用同知直隷州理刑主事慶山前往接辦並飭其認眞整頓從速勸放俾竟全功該員到局後會同各員與該蒙和衷共濟苦心經營數月以來聿臻成效其在事出力各員或窮邊冒暑馳驅炎風烈日之中或沙漠衝寒備嘗雪窖冰天之苦又或鈎稽綜核區畫精強始終罔懈核計前後收進荒價等項銀兩至四十餘萬之多均經一律蕆事跡其力任艱難不無微勞足錄查本年郭爾羅斯後旗荒務報竣經奴才援照奉天大淩河東西流水及札克圖荒務請以異常勞績奬叙奏蒙　特恩允准給奬在案此次該員等集款較多成勞尤著且江省亟須推廣放荒不能不優酬勞勩用策將來除總理該處荒務之慶山業於郭爾羅斯後旗荒務報竣案內奏保奉　旨給奬外所有此次尤爲出力之試署大賚廳通判徐鼎霖請俟補缺後在任以同知補用並加四品銜擬陪防禦雲騎尉文啟請俟補缺後以應升之缺補用佐領驍騎校恩瑞請俟補佐領後以應升之缺升用前鋒都慶領催瑞昌委筆帖式榮芳均請以驍騎校補用水師營水手永春擬請以六品官補用府經歷職銜監生劉承堯田本恩均請以府經歷不論雙單月歸部選用合無仰懇　天恩俯准照擬給奬用昭激勸出自　逾格鴻慈除由奴才飭取該員等履歷咨部查照外所有扎賚特蒙旗荒務報竣在事出力人員擇尤保奬各緣由謹恭摺具陳伏乞
皇太后　皇上聖鑒訓示謹　奏奉
硃批著照所請該部知道欽此

東京電報

●日本陸軍大操　日俄之戰日本獲全勝之勢將士凱旋日皇因前閱戰艦於東京灣爲一時盛觀今定於西四月三十日舉行陸軍大操於青山練兵場以大山總帥爲司令官兒玉大將爲叅謀長野津總帥爲指揮官其叅列將士不下十萬云

●總督奉旨再回京　關東總督大島大將日前已發東京就歸任之途到馬關昨十四日有電命其速回京云

●銀行承諾公債之募集　此次日本大藏大臣招集京坂地方銀行家對於募集內國公債二億圓之件互相協議銀行家等均體其　旨意願應諾其募集云
（以上西一月十五日到）

中外要聞

●川督電請添官　四川總督電達政府係請添設官缺以資控制各訟當經王大臣會議以川省距藏二千餘里控制實非易事兼之藏事棘手兼顧尤難應在打箭爐添一巡撫設一總兵并設一道二府四縣治理該處俟有成效再爲改土歸流等語聞此事鹿大軍機力持其議

●請拒絕法人干預礦政　四川總督錫良電致外務部稱四川全省礦產均歸紳商自辦因有法人持過期文憑仍欲接辦已經拒絕茲聞法人持憑赴大部分訴會希大部勿受其籠絡致令川省利權外溢云云

●議俄約之預備　兩宮面諭軍機大臣政務大臣籌議與俄開議之策當時瞿鐵二大軍機仍擧慶邸首與俄使提議云云皇太后不以爲然當日垂諭軍機大臣電告南北洋大臣湖廣總督各抒己見妥籌議約條欵速行電奏等諭昨由軍機處發電矣

●私賣蒙地　日前外部呈遞封奏　兩宮覽奏甚爲驚愕當交政務處妥速議奏茲聞最靠消息原摺所奏蒙地外旗尚未察清內蒙古敖漢部阿巴哈納爾部浩齊特部札爾特部均有俄人私買蒙古地業並未報明金砂煤礦共二十四處云云

●裴稅司自陳意見　日前海關裴稅司至外部與堂憲會晤謂中國宜早開放庫張商埠此擧當在中俄開議之先如在開議之後開放恐俄人從中別有要求等語並條陳一件請外部代奏云

●清查山西地畝　聞政府議山西屢年首報欺隱地畝皆經提報升科但聞從前首報欺隱時有果係畝數浮多情願報出升科者亦有地方官奉行不善按照原額荒夫勒令灑派具詳者著該督撫曉諭前所報欺隱等情再令據實首報照數輸將倘無欺隱浮多而地方官按照原額荒夫具實呈明飭該撫派委賢員確核豁免云云

●條陳豫省農務　聞某侍御條陳豫省地土原有水旱田兩項旱田賦輕水田賦重一經改種必須奏請加賦其水田收穫倍于旱田若可改種則易瘠土而爲沃壤於民間自有裨益現在輸糧田畝非新墾隱匿者可比嗣後如願將旱田改作水田者悉從其便錢糧仍照原定科徵收免其改則加賦但各州縣地形不同土性迥別其不便改種者地方官不得勉强勒派云

●陝省墾務　政府議陝省荒地全無出產者招民開墾其有割漆砍竹採取木耳構皮等項聽民自便地方官不得目爲荒地强令墾種亦不得以現穫微利勒報升科凡文武官紳將新墾地及熟地隱匿一畝至一頃以上者分別議處

雜報

●奏催協款　奉天將軍趙次帥日前具奏各省承認協濟奉天經費銀七十餘萬兩所需不敷應用奏請飭下各督撫將軍等速行設法全數籌撥以資接濟等語

●解到官犯　日前訪聞刑部先行收到解京官犯文件確聞日昨解到官犯瑞洵景善等二名由當月司已簽掣雲南司辦理奉堂諭飭派皂班周子峯等十二名分往南北所外監看收聽候定期審辦云云

●因父罪開除烏布　聞工部虞衡司繕寫官伊保係官犯瑞洵之子昨聞奉堂諭即將該司員烏布開除並有兩月未能進署當差云云

●會水漸跌　本埠向各埠會水加色逐次跌落滬上會水加色昨落至八十三兩天津會水昨落至一百四十兩瀋陽會水落至一百二十兩寬城子落至一百兩吉林會水九十五兩向錦城會寶銀一錠加色九兩二錢本埠爐銀兌換寶銀每一錠加色八兩云

●創立戒煙善局　埠民有郭心農者年三十餘現充郵政局書記見埠內貧民多被鴉片煙膏之患每欲籌一戒煙善局備一二僅僕於內侍奉飲食一切至十日即能戒妥不取一文之費無如善念誠篤囊橐空虛乃與其里鄰殷振東者創議斯擧殷家稱中貲甘願自備屋宇數椽并約同志共爲籌資創辦一切前日適遇一劉醫年近七旬術精岐黃兼諳戒煙藥性因而復聯同志數人相與創辦倘有戒煙者甘贈謝儀槪須分明注簿留作經費之需皆不准私取一文云云

●鎭江大米到埠　前日有商客販運鎭江大米兩萬餘包抵秦隍島卸乘汽車連次來埠當經開行每斗市爐銀十三兩米質稱中埠內諸商多向購買云

諧文

●錢樹子賦并序　樂府雜錄許子相吉州永新倡家女能變新聲卒時謂其母曰錢樹子倒矣今稱妓女爲搖錢樹者蓋本此偶有所感爰爲之賦其詞曰

爾其亭亭玉立燦燦金相含風音細織雨情長倚華屏而寶俏却寶扇而凝妝麝煤修月蝶粉霏霜豈移根於嚴道乃挺植於平康至知意蕊初開情芽乍透治葉翩翩倡條娟秀盼水衡而橫波見金夫而逐臭及其施朱月夕點黛花晨荷圓出水榆薄飄茵貫繫龜而訏朽個數姹而憂貧集帙翼兮尠赤貼鸞眼兮難青則有南國王孫東湖大賈各買笑於牀頭豈不言於阿堵魯褒論好那知此處婆娑和嶠癖深緊豈而家奴虜王人見而歎曰昔年此樹搖搖滿贏今看凋落蕭索春城樹猶如此泉府何贏

NEWCHWANG, SATURDAY, FEB. 16, 1906.

THE HAND OF DIVINE PROVIDENCE (PART XXXI).

Apart from the tardy "approval of other Powers," the new Saionji Cabinet which is Marquis Ito's virtual protegee has been going through the searching ordeal (Is this the alleged "critical position in which the Government of Japan is placed"?) of the critical Diet sitting in session since early January last. The astute statesman's time might be far more profitably employed at Tokyo than at at Seoul, toward facilitating the perfection and materialization of his multinumerous plans, not only for Korea but also for consolidating the stability of the Cabinet which has superseded the widely abhorred machination of absolute militarism. No one need be needlessly alarmed, even if the Marquis should take another week or two before leaving Japan. Whether he is in Japan or at Seoul, that matters little to his being the Resident-General. Last Wednesday's Tokyo telegram brings us the welcome tidings that 30 Japanese undesirables have been expelled from Seoul. That was only the beginning of a wholesale judicious elimination of their class. (It might be, by the way, merely a reluctant echo to the vigorous crusade by the Seoul contemporary, who knows?)

Near the close of the same brilliant article under notice, the Editor artlessly adds: "It is expected that Marquis Ito will set out for Korea at the beginning of February. The "Japan Mail" reports that His Excellency has been suffering from gastric trouble but his condition has improved of late." Such heralding of the Marquis's impending departure, not to mention the self-explanatory reason for the delay, set side by side with the elaborated "rumour of considerable plausibility" would be leaving the reader's mind in the bewilderments of an intellectual labyrinth. Any credence he might have otherwise attached haphazard to the tardy "approval of the Powers" bogy would forthwith evaporate into the void. It would inspire him with the growing distrust, if anything at all, of the author's ill-disguised line of libelous campaign against Japanese interests in Korea.

Has he not made a capital fun, in concert with his North China clique, out of the 'extraordinary magnanimity' of Japan at the Peace Conference? Has he not made the most of Japan's utter failure to get a cent out of Russian pocket, not forgetting even the victor's cession of half Saghalien which was nothing less than a legitimate trophy of a just war? Our esteemed Shanghai senior, the "Shanghai Times" in its issue on January 30th. last, has seen fit to allot a full column to another terse summing-up by the Seoul Editor of the rich "Fruits of the War," from which is culled the following quotation. "In view of the fact that all the concessions that Japan has obtained, from the reversion of China, are of a temporary nature and likely to be a burden instead of a source of profit for the brief period during which Japan may hold them, and taking it for granted that Japan intends to yield up these privileges as soon as the various leases expire, it becomes interesting to speculate upon the measures she must take in order to recoup herself for the *twenty million yen* which *she shot into the air in her futile endeavor to drive Russia out of Manchuria.* Japan has of course obtained possession of the southern half of Saghalien. - - - but there is not much probability of the new acquisition being turned to any practical account in the near future. - - - There remains, therefore, only Korea, and Japan's position in Korea is obscured by so many conflicting issues that we do not believe either Korea or Japan knows exactly what it is—still less *what it will be five years hence.*"

20,000,000 yen is nothing even to a poor famine-stricken country like Japan to recoup. Granting that 2,000,000,000 yen is meant instead, this stupendous figure has been shot into the air for a national mission by long odds higher, juster, of absolute necessity and of Hemispheric importance than for the mere endeavour to drive Russia out of Manchuria.

Newchwang had a regular blizzard, beginning during Wednesday night and lasting till late last night. The temperature was comparatively mild, but the heavy fall of snow interfered not a little with street traffic, and, as is suspected, also with Mr. Cook's plan of auction sale originally fixed for this morning. He has put it off to the 20th, (Tuesday) and the 21st. (Wednesday) next.

We understand that a bazaar will be held by prominent Japanese ladies at Newchwang at the Assembly Hall on the 20th. inst. next. Tqe particulars will appear in our to-morrow's issue.

The "M. D. R." Relief Subscriptions, (No. 3.)

	$262.00
A British Sympathizer - - -	5.00
The same Gentleman, (in all $20) - -	8.00
	275.00

豫報
昨日の氣溫
昨日の氣溫 最高溫度三十度 最低溫度廿渡六
昨年との比 高〇度三 低一度九

爲替相場（二月十五日）
日本向　九十九圓七十五
上海向　七十一兩二匁五分

日本品最近物價表　加藤洋行調査
雜物類
正宗　三斗九升入　銀二十圓
館ラッキョ　四打入　同十三圓
辛子　五打入　同十四圓五十錢
漬　四打　同九圓五十錢
鷲ミルク　仝　同十八圓
石炭（飯塚工程局）
上等塊炭　一噸ニ付　銀十八圓

MANCHURIA DAILY REPORT.
Subscription　4 cts. a copy　80 cts. per month

本紙定價
一枚ニ付　銀四仙
一ヶ月前金　銀八十仙
半ヶ年前金　四弗八十仙
一ヶ年前金　銀九弗八十仙

營口旅館料理店案内（いろは順）

旅館　第一營口ホテル　元神廟街九十六號
旅館　第二營口ホテル　河岸通り
料理　第三樓　元神廟街三十二號　店主　粕屋忠兵衛
料理　入船亭　永世街百八十三號　谷　初次郎
旅館　日營ホテル　河岸通り　店主　井上源吉
料理　東京館　永世街八十六號　店主　村上京四郎
旅館　東茂旅館　西北街百七十三號　正金銀行西三程
料理　沖の島　永世街百六十五號　店主　中川捨三郎
料理　吉野亭　永世街八十六號　店主　坪田正好
旅館　竹村館　永世街二十二號（電話五一）　店主　麻田久二
旅館　大和館　永世街十一號　店主　前田九一郎
料理　滿洲樓　南永世街第十號　店主　直塚勝一
料理　萬梅　豊濟門街第百〇四號　店主　田島薫助
御料理　まんなをし　永世街字二本町二百五十九号　元吉田屋跡　店主　和田常松
料理　醉花園　旅館　澁谷旅館　永世街百二十七號　店主　澁田留吉
旅館　金城ホテル　永世街百六十六號
料理　第二金城ホテル　永世街百六十六號　店主　齋藤富次郎
旅館　東雲旅館　永世街七號　店主　谷口今朝太郎
料理　喜樂亭　營口元神廟街

營口軍政署御用旅館　東　主任　谷口今朝太郎

さるそば　第一更科　營口元神廟街
さるそば　第二更科　永世街鶴の湯角

御料理　叮嚀專一　柳亭　豊濟門街二三　店主　玉岡粂人

御料理並ニ溫泉　一力　營口永世街　店主　堀万助

和洋料理　本店　松月亭　營口元神廟街一四三号
和洋料理御旅館　支店　滿洲ホテル　遼陽西街西門一一七号

遼陽旅館料理屋案内

旅館料理業　日營ホテル支店　主任　井上源吉
御料理會席　菊水館　主任　朝枝園捷
旅館西洋料理　遼陽館　主任　永瀬宇吉
旅館料理業　公陽館　主任　宮川秀基
御料理會席　末廣屋　主任　山根初之亟
御料理　凱旋亭　色々應御注文　主任　古谷庄太郎
旅館御料理　遼塔ホテル　主任　木村常吉
遼陽兵站司令部指定ホテル　遼陽倶樂部　營口東雲館支店　主任　谷口今朝太郎
會席　玉家　主任　西野治三郎
御料理會席　來々亭　主任　石田清
御旅館　豊陽館　上海（電話一〇六番）　日本郵船會社荷客取扱　歐米汽船乘船取扱　館主　米田藤吉

撫順炭大販賣
多少に不拘御用命被仰付度願上候
金城館販賣部

營口
特別室落成
金城ホテル旅館部

藝妓仲居
新來
金城館料理部

奉天小西門外
會席御料理
高等御旅館
金城館

旅館　富喜樓
室内は極清潔防寒之設備あり
鐵嶺驛へ瀛車到着毎に日本人の案内者出張致し居候
鐵嶺城東門外南へ一丁余
南大街　樓主敬白

◎フレノロジー
頭腦を觀察して身の上はんたんをなす
營口豊濟門街廿三號　李俊氏宅の西半町
利生堂

雜貨
醬油　味噌　清酒
營口西北街
阪神組

御料理　滿月
平野町一八二（電話一六二）

御料理　滿月支店
平野町（元都樓跡）
今般内地より撰り抜きの別嬪數名呼寄候に付不相變御引立の程希上候
店主　青木勝惠

御旅館
天津
芙蓉館
駐屯軍御用
並西洋料理
（電話四百十一番）

高等旅館
彌生館
營口永世街
館主　宮下兵七郎（電四二）

和洋會席御料理
一弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に造附且又會費等は特に割引大勉強仕候
二奉天支店も本店同樣に大勉強仕候間御光來被成下度候
營口永世街二本町　日本館本店（電話百三十番）
奉天小西門外大十字街北入橋町　日本館支店（電話十九番）
各位樣

讓り渡し
弊樓現在の家屋疊建具付の儘讓渡し度候に付御望みの御方は至急御來談被成下度候
二月四日
平野町　春帆樓

SK
軍票騰貴
致候に付弊
行正札價格より五
歩引を以て御用達可申候
銘酒菊正宗新着!!
尚最上日本白米及マッチ新荷着仕候
雜貨商　加藤洋行（營口電話八十一番）
本店　天津日租界
支店　營口　北京　大阪
出張所　遼陽
SK

發賣
材木　檁子　木板
清國營口二本町二五五號
塩川商會
主任　鹽川峰吉（電話一三六番）
遼陽小西門内　鹽川商會
外に
電柱用材杉丸太長（自二十尺至三十尺）八千本●
建築用材北海道産松大角（自廿五尺至三十尺）一万立方尺餘
右之品多少に不拘特別安價を以て差上候條御入用の御方は御來臨被成下度候也

○上等石炭　一噸に付　銀十六圓
○上等日本米　一石に付　銀二十圓
○板材木　○木炭
○亞鉛板　○洋釘
○干壚魚　○石灰
御小賣致候間御用の御方は御通知次第直に持參可仕候也
喜久洋行
永世街八十號（電話百五十二番）

大連
東洋ホテル
大連鐵道停車場附近民政署前兒玉町